

令和4年度 文京区障害者地域自立支援協議会

第2回 就労支援専門部会 要点記録

日時 令和4年12月13日(火)10:00~12:00
場所 文京区シビックセンター 障害者会館会議室 A・B 会議室・オンライン
出席者 志村健一・瀬川聖美・佐瀬祥子・藤枝洋介・北村洋次郎・松井裕・池田直矢
阿部光実・平井芙美・小林美千代・中瀬 茂由・有村秀一・天野亨・鶴田 秀昭
吉野隆久・加藤たか子
欠席者 稲村 優・小泉洋平・南雲 ひとみ

<会議次第>

- 1 開会
- 2 議事

- (1)今年度の検討事項について【資料第2号】【資料第3号】
- (2)短時間雇用アンケート(案)について【資料4号】
- (3)ハンドブック送付先について
- (4)その他

<配布資料>

- ・就労支援専門部会委員名簿……………【資料第1号】
- ・今年度の検討事項について……………【資料第2号】
- ・第1回就労支援専門部会意見要約……………【資料第3号】
- ・短時間雇用アンケート……………【資料第4号】

- ・開会にあたって、事務局より、出欠席の確認、配布資料の確認を行う。
- ・就労支援専門部会の司会進行を事務局から部会長に交代。

【議事】

(1) 今年度の検討事項について

① 令和4年度就労支援専門部会 今年度の検討事項について【資料2号】

・資料について(令和4年度 優先課題:(1)切れ目ない支援、(2)居住支援)、事務局より説明を行う。

② 第1回就労支援専門部会意見要約【資料3号】

・資料について事務局より説明を行う。

(各委員からのご意見等)

- ・短時間雇用について、社会全体がジョブ型の雇用に慣れていない。ジョブ型の雇用について広めていくとがよい。
- ・現在は、毎日仕事ができる人が雇用につながっている。仕事を細かくして、ポイント的に行えればよい。
- ・区役所の中での仕事等、時給で行えれば良いか。

(2) 短時間雇用アンケート(案)について【資料4】

・資料について、事務局より説明を行う。資料4のアンケート(案)の説明の前に、参考資料として、資料3の補足資料(超短時間雇用)の説明も行う。

(各委員より活用報告・ご意見等)

- ・アンケートを取る上での期日(11月末現在)については、事業所として大丈夫である。問1に関して、5名と複数名いる場合もある。次の問2について、5名であればそれぞれの事情がある為、理由の選択が全てチェックされてしまう可能性がある。それぞれに対応できる項目があると良い(記入項目を増やす)。
- ・事業所によって、複数名いる場合は、コピーをして足していくことも可能である(5名ぐらいが丁度良いか)。
- ・B型事業所にて就職を目指している方は、週20時間以上で目指していることもあり、ご本人の想いとしては、短時間雇用についてはないと思う。
- ・事業所(支援者)から見た目で、「短時間雇用ならいける」という人もいれて良いか？
➡基本的には、ご本人の気持ちである。支援者でも良いが、アンケート期日までに、本人との面談などで確認していく。
- ・利用している事業所を辞めて、超短時間雇用の会社に雇用していくこと。「B型事業所ではなく、週3日ぐらいの企業に行きたい」という人もいるかもしれない。
- ・B型事業所を通常通り利用しながら、その中で超短時間雇用に行ければ良い。
- ・「超短時間雇用をやりながら、B型の利用をしていきたい」という気持ちがあると思う。利用するには、受給者証のこともある為、区としても考えてもらえたら良い。
- ・事業所が入り込んでできるシステム(「○事業所から数名会社に行く」、「支援者も含めて会社に行く」「1時間~2時間働く」等)。
- ・スーパーにて、開店時間の品出しのみの仕事、品出しが終わった後の段ボール片付けのみの仕事等、忙しい時間帯の、ポイントになる仕事のみ行うイメージ。
- ➡他地域で上手く行えている事例をもとに検討していく。
- ・企業としては、施設外就労という位置づけになると思う。超短時間雇用となると、カウントに入らないことや、

長期で行うと、助成金が入らなくなる等、デメリットが出てくる。

・アンケートの対象(事業所なのか、個人なのか)が変わると、中身も変わってくる。超短時間雇用の考え方も同じである。「地域とのかかわり方」、「B型から出てお小遣い稼ぎ」というイメージを持っている。

・短時間雇用ができるとすれば、色々と広がっていくと思われる。実績を作れば、更に広がっていくと思う。

今回のアンケートは、まずは広く把握することとすると良い。

▶今回、委員の皆さまから出たご意見を元に、アンケート(案)を事務局でまとめ、作成したものを部会長や副部会長と確認していく。

(3) ハンドブック送付先について

・事務局より説明を行う。民生委員の方には配布済。病院については、「みちしるべ」に掲載されている病院に送付予定である(各病院1部)。病院について、不足している場合は、後日送付対応をする。

・その他の送付先については、区内の大学にあるキャリアセンターを検討している(高校やチャレンジスクールも含めるか)。

・王子特別支援学校は、高等学校連絡会の調整校でもあり、連絡会の場でハンドブックの必要性について確認できる。確認が取れ次第、事務局に連絡を頂く(チャレンジスクールの件も含む)。

・茗荷谷クラブの作成しているハンドブックについて、就労支援ハンドブックの「社会資源チャート」について、そのまま掲載することについての確認があった。各委員への確認にて了承される。

(4) その他

・次回の就労支援専門部会については、2月中旬から下旬の開催予定である。